



# 園だより



令和6年1月26日  
佛教大学附属こども園



「仏教保育2月のねらい」  
ぜんじょうせいじゃく  
禅定静寂

## 「多様性」

園長 佐藤和順

日本には、春夏秋冬という「四季」があり、それぞれ立春・立夏・立秋・立冬が季節の始まりの日です。間もなく立春を迎えます。温暖化で季節がわかりにくいとの声も聞きますが、さすがにこの時期は厳しい寒さが続きます。子どもは白い息をはいたり、冷たい空気を肌で感じたり、園庭の氷を手にしたりと小さい身体で「冬」を感じながら過ごしています。立春と聞くと春が近いと感じ、うれしくなってきます。

今月の保育目標は「禅定静寂(ぜんじょうせいじゃく)よく考え落ち着いた暮らしをしよう」です。「禅定静寂」とは、落ち着いた豊かな心で、どのような環境にも心静かに対応することを意味しています。思いつきを実行すると、失敗することがあります。行動に移す前にじっくりと考え、世の中の動きに巻き込まれずに、しっかりと地についた生活をするための大切さを教えてくれています。

ブツダのことは「身体が怒りを放つのを抑え守り、身体をよく制御せよ。身体による悪行を捨て、身体によって善行を修めよ。」とあります。私たちは些細なことに腹が立つことがあります。周囲の無神経なことばや失礼な態度に、イラっとしたり腹が立ったりします。本当にささいな事が気になります。大したことではないのに、そのことが許せないのです。気にさわる、許せないのは“自分の基準”ではダメなことだからです。“自分の基準”では、許せないのです。でも自分の基準が、他人の基準と異なる場合も多々あります。自分がいつも正しいとは限りません。いちいち腹を立てるより、「人にはそれぞれの基準がある」と思うことも大切です。現在、多様性ということばをよく耳にします。多種多様な価値観を受け入れることが、今後の社会づくりに必要と考えられていることの表れかもしれません。多様性は、人間関係においても重要だと思います。大人も子どもも自分の意見と異なるから、自分の価値観とは異なるからという理由で、他者を否定するのではなく、一歩退いて、客観的に自分や他者の考えや価値観を判断することができれば、禅定静寂な生活が送れることと思います。

年始よりいろいろなことが起こっていますが、そのような時こそ私たち大人が禅定静寂な生活を送り、子どもの見本になりたいものです。

